

K.UNO NEWS LETTER | Vol.02

ケイウノ オーダーメイド広報通信

毎月1回、ジュエリーやオーダーメイドに関する、さまざまなヒト・コト・モノの情報をお届けする「ケイウノ オーダーメイド広報通信」

お客様のまなざしや仕草までも デザインに活かしたい



ケイウノは全国に36店舗展開するジュエリーのオーダーメイドブランドです。ケイウノが取り組む活動や、サービスについての広報誌を定期的に発行しています。

今回登場するのは、ケイウノでデザイナー兼ジュエリーコンシェルジュを務める浅川浩子さん。ケイウノでは、50名のデザイナーが、お客さま一人ひとりのご要望に合わせて、年間約4万種類のデザインを生み出しているのですが、浅川さんはその中の一人。8歳と5歳の母親でもある浅川さんは、ケイウノが持つオリジナルの勤務体系”オーダーメイド勤務”を利用中。会社を代表するデザイナーとして、家庭を守る母として、活躍している浅川さんにお話を伺いました。

浅川浩子

デザイナー ジュエリーコンシェルジュ
ケイウノ銀座ブライダルギャラリー店
女子美術大学芸術学部絵画科日本画専攻卒業後、同大学大学院美術研究科に進学。卒業後、2003年株式会社ケイウノ入社。ケイウノ全店で4名というジュエリーコンシェルジュの資格を有する。趣味はテニス・ホットヨガ・歌舞伎鑑賞。

デッサン力から姿勢まで。デザイナーに求められる条件とは

ケイウノでは来店されたお客さまの要望に合わせて、デザイナーがデザイン画を何枚も描き起こします。しかも、お客さまの目の前で…。でも、実際にお客さまの前でデザイン画を描けるようになるためには、実に厳しいテストがあるのだそうです。一体どんな内容なのでしょう。

「デザイナーの最終テストは社長が直接行います。フリーハンドで指輪を描くといったことから、どんなブランドからどんな商品が出ているか、現在のトレンドから過去に至るまで、名前や価格帯、ポイントを答えなければなりません。また、さまざまなモチーフ、豹やペンギンなどの動物から、バナナやぶどうなどのフルーツ、あらゆるものを言われた時にすぐ描くことができるかどうか。さらには、描き起こしたデザイン

が実際に作れるかどうかの考慮も必要です。厚みがない、パーツが入らない、では話になりません。加工の知識がないと提案はできないんです」

「デザインや加工に関すること以外に、ファッションや所作もテストされます。お客さまの目の前で描くということは、デザイン画そのものだけでなく、デザイナー自身が見られているということですから。店頭で描くため、後ろ側に別のお客さまがいらっしゃる場合があるので、全方位に気を抜けません。そういうテストが何度もあるんです」

女子美術大学で日本画を専攻していたという浅川さん。大学から大学院に進み、充実した日々を送ってはいいたものの、自分の思いだけで

描くことへの孤独感に悩んだことも。そんな浅川さんが就職活動の時、巡り合ったのがケイウノだったそうです。

「ちょうど、誰かのために、何かをして喜んでもらえたら、自分がこれまで学んできたことが形になるのではと、考えていた時で。説明会での社長のデザインパフォーマンスを見てどうしてもここに入りたい!と思いました。実際にお客さまの前でデザイン画を起こすのは緊張の連続です。デザインに対して『違うな』という思いがダイレクトに伝わりますし、購入してもらえなかったらそれが答えですから」



オーダーメイド勤務のよさは、 会社と共に働き方を考えられること

そんな浅川さんが利用しているのが、ケイウノ独自の勤務体系“オーダーメイド勤務”。現在8歳と5歳の子どもを持つ浅川さん。実は最近、育児に加えて介護という現状に向き合うこととなりました。

「オーダーメイド勤務は、個人のライフスタイルに合わせて、出勤日数や勤務時間などを調整できる、ケイウノ独自の制度です。誰でもが取得できるわけではなく、個人の経験やスキル、部署の状況などを踏まえて認められた人が取得できるものです。現在約505名の

スタッフのうち40名ほどが利用しています。

私の場合、最初の子どもの時に利用したのが2009年。保育園への入園や実家との距離、パートナーの勤務状態など、さまざまな事情に合わせてその都度相談できました。育児のためだけでなく、介護でも利用しているのは私が初めてだと思います。正直なところ、介護なんてまだ先と思っていたのですが、現実には起こってしまって…。働き続けるかどうか悩んだのですが、上司に相談したところ、会社側が親身になって考えてくれたんです」

保活という言葉があるほど大変な日本での子育て事情。同時に、介護離職などの悲しいフレーズがニュースになる現在において、ケイウノのオーダーメイド勤務は、制度自体に加えて、会社側が親身になってくれます。働き続けたい社員にとって何よりのパートナーといえるのではないのでしょうか。

「私の肩書きにある“ジュエリーコンシェルジュ”。これは、ケイウノ独自の資格で、販売スタッフの中でもファッションジュエリーの販売提案力や知識を持っていることや、お客様の喜びに繋がる行動が日々できているスタッフがテストを受け、与えられるものです。全国で4名が持っているのですが、私はオーダーメイド勤務の時に取得したんです。ある日上司から自宅に電話がかかってきて、受けてみてはどうかと。そんな風にオーダーメイド勤務中でも、スキルアップができる制度があるということも本当にありがたいですね。でも何もかも会社に一任するのではなく、自分自身でもできる

限りの策を講じ、さらに顧客さまのご要望も考慮して、時には提案もして、会社と共に考えていくようにしています」

最後に、浅川さんが今後どのように働き続けていきたいかを伺いました。

「今年の4月でケイウノに入社してから14年目です。つくづく思うのは、私はお客さまと直接触れ合わせていただくのが好きなんだと…。産休から仕事復帰する際、はじめはインターネット上でオーダーメイドのご提案をするサービスのデザインを担当していました。ですがやっぱり私はお客様と直にお会いして、ご依頼いただく内容だけではなく、その方の雰囲気とかまなざし、ちょっとした言葉などすべてを含めて、真意を感じたいんだと実感しました。そしてそれをデザインとして仕上げ、商品として実現したいです。そのためには、日々勉強ですね。」



3月の誕生石Story

各月に合わせた誕生石。先月2月はアメシストでした。この誕生石、月によっては複数あるのはご存知でしょうか？ 3月はアクアマリンと珊瑚。今回ご紹介するのは珊瑚です。珊瑚は日本だけの誕生石。“さんご”という読みから、三五と解釈して、結婚35周年の記念石（珊瑚婚）とされたり、「産後の肥立ちがよいように」と、出産の贈り物にされることもあるのだとか。

写真は、優しいピンク色の珊瑚が主役のリング。海の中ではぐくまれる宝石・真珠と合わせて、しっとりとした上品な輝きを放っています。

